

家畜中毒の症例を検索するデータベースの構築

家畜の中毒は、飼料や畜舎環境に潜む多くの要因によって起こるため、正確な診断が難しいものです。また、家畜が有害物質を摂取した可能性がある場合には、診断を確定することによって、症状を示さなかった同居の動物や、回復した動物を含めて、畜産物の食品としての安全性を判断する必要があります。そこで、診断支援に利用できる、我が国の家畜の中毒症例報告に関するデータベースを構築しました。

☆ 技術の概要

わが国で近年発生している家畜の中毒の症例を収集してデータベースを構築しました。MicrosoftOffice の Access のファイルとして作られており、原因となる物質や症状から類似症例を検索することができ、個々の症例の詳細は単票としてみることができます。個々の症例と現状の疾患について飼料給与状況や臨床検査結果などを比較することにより診断技術、治療法などを特定し、診断を進めることができます（図）。

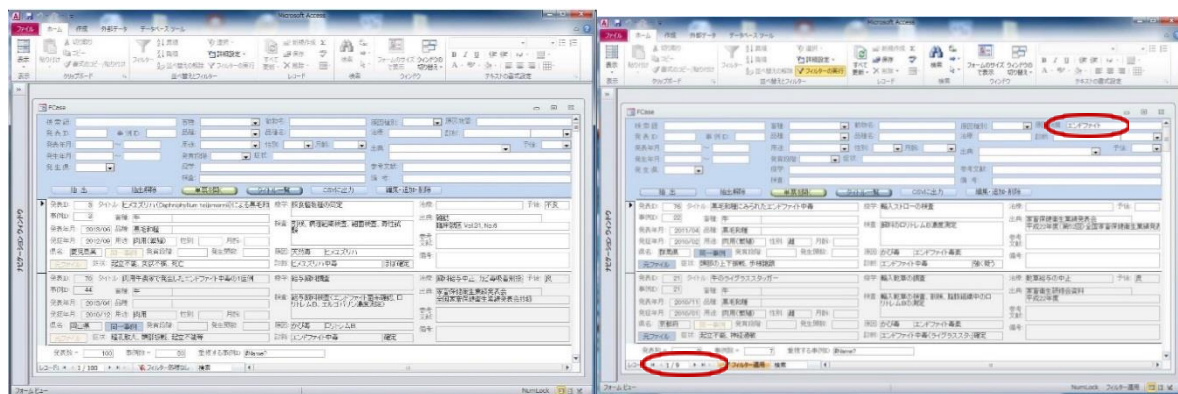


図 データベースのイメージ。左図では全症例が示されているが、水色の検索欄に検索語（ここでは「原因物質：エンドファイト(右上赤)」）を入れて検索すると、検索結果（左下赤に症例数）が示される。個々の症例は単票として詳細を検討することができる。

☆ 活用面での留意点

このデータベースは、家畜保健衛生所の獣医師など、病性鑑定の知識を有する専門家に限定して公開しています。正しい診断が下されることにより、中毒事故の再発を防ぐことで生産者を守り、畜産物の安全性を確保することで消費者を守ることができます。

（農研機構 動物衛生研究部門 病態研究領域 中毒・毒性ユニット 山中典子）